

ふる里讃歌を奏でる

日本の心を描く画家

元宿 仁の世界



「もらい湯」油彩／キャンバス 606×727mm



「ふる里の夏(50号)」油彩／キャンバス 1,167×910mm



「父と夕日」油彩／キャンバス 803×1,167mm



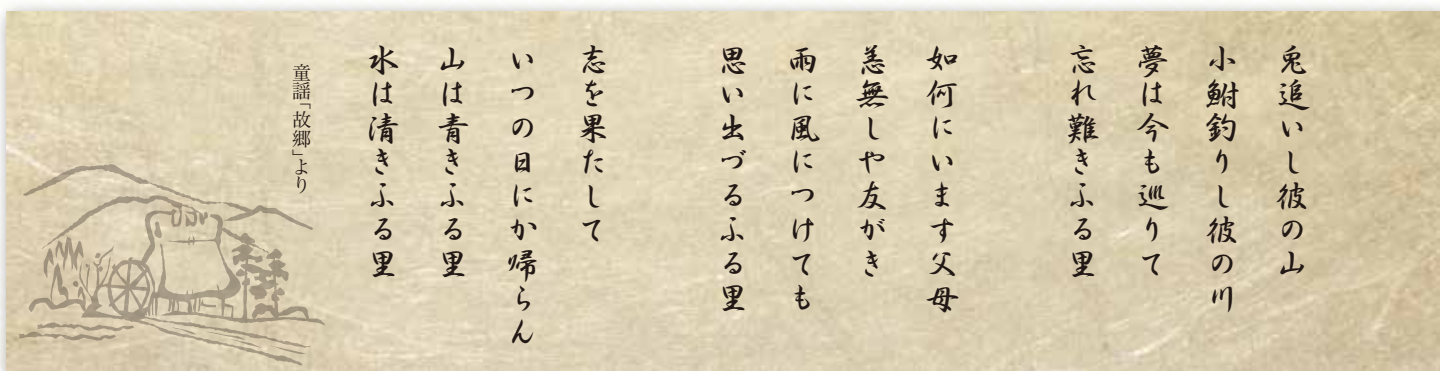
「晩秋の子持山」油彩／キャンバス 659×530mm



「春の夢」油彩／キャンバス 610×730mm



「実りの秋」油彩／キャンバス 520×640mm



作家プロフィール

昭和20年(1945年)8月、群馬県利根郡川場村に生まれる。

群馬県立沼田高校、法政大学と駒澤大学に学ぶ。卒業後、昭和43(1968)年4月に自由民主党本部事務局員となり現在自由民主党事務総長。平成16(2004)年5月ふる里川場村を舞台とした自伝「山里のガキ大将」を出版。日本ペンクラブ会員。

日本画家として始めた趣味の絵画は、子供のころ父親から与えられた「上毛かるた」にその原点がある。そこには、ふる里群馬の美しい山河が描かれていた。私の好きな上毛三山は、「裾野は長し赤城山」「登る榛名のキャンプ村」「紅葉に映える妙義山」と詠われ、「つる舞う形の群馬県」の絵札は一羽の丹頂鶴が舞い降りる姿を群馬の象徴として描かれている。戦後間もない頃、まだ家庭にはテレビやゲーム機もない時代、貧しくとも家庭にはいっぱい笑いがあり、みんなで助け合っている姿があった。心の奥底に「上毛かるた」から培われた想いは今なお生き続けている。だからふる里に帰ると、いつもその時代に気持ちがスリッし、いつのまにか絵筆を握り、ごく当たり前に絵の中に心が溶け込んで、明日への力が満ちてくる。私にとって「ふる里は近きにありて思うもの」である。ふる里の山河に感謝。

「文化人・芸能人の多才な美術展」15年間出展。



元宿 仁

Hitoshi Motojuku

出展作品一覧

- | | |
|---------|--------------|
| ①もらい湯 | ⑦夏の日の想い出 |
| ②コスモス | (尾瀬・ニコウキスゲ) |
| ③父と夕日 | ⑧ふる里れんげ草 |
| ④晩秋の子持山 | ⑨春の夢 |
| ⑤実りの秋 | ⑩ふる里の春(100号) |
| ⑥ふる里冬景色 | ⑪ふる里の夏(50号) |

【お願い】 ■場内混雑の場合はお待ち願うこともあります。 ■場内での写真撮影、複写は固くお断りいたします。 ■場内での携帯電話のご使用はご遠慮ください。 ■ご入場は閉場 30 分前までとさせていただきます。
■新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、会場には必ずマスク着用にてお願いいたします。手の消毒、検温もご協力をお願いいたします。会場内で大声でお話する事は出来るだけ控えてください。
来場者の安全を守る為、皆様のご協力をお願いいたします。
■会場は通常メンバーズオンリーの記者クラブです。鑑賞している方に主催者の許可なくして話しかけたり名刺交換などご遠慮下さい。マナーをお守り下さい。